

02 資源回収



高橋 誠 さん

資源回収は自治会の活動資金の確保を目的として始めたのですが、チラシや会議での広報もあってか、昨年度は6月から始めて3月末までで約290キロのアルミ缶とスチール缶を集めることができました。結果として約40,000円ほどの収入となり、手応えを感じています。すみよし自治会では毎月第4日曜に通常の収集場所へ缶を出してもらい、担当者が集めるようにしています。今後さらに呼びかけなどをしてごみ減量に励みたいと思います。



01 コンポスト



小山 加奈 さん

昨年、町内で開催されていたイベントでこのコンポストが販売されていたのですが、担当者から町の補助金を活用して購入できるという話を聞いたり、バッグ型で気軽に始められる大きさだったということもあり、その場で購入しました。コンポストバッグを買ってからは、生ごみも無駄なく使えるほか、可燃ごみはもちろん資源ごみの分別についても意識するようになりました。バッグの中身は仕事で使うほうきモロコシの畑に堆肥として撒いています。



暮らしを見直して、ごみを減らす

03 その他のごみ減量対策

ごみの減量対策は他にもあります。一人ひとりの暮らしの中の工夫が町全体の大きなごみ減量へ繋がっていきます。

日常の食品ロスを減らしてごみ減量へ

福島県のごみの排出量が問題になっていることを受け、福島県消費者団体連絡協議会として、昨年から「食品ロス削減に関するアンケート」を実施し、今年の2月には「食品ロス削減のためのアイデア集」を発行しました。買い物や料理、食材の保存方法など、日常生活において食品ロスを減らすためのアイデア100選を紹介しています。



福島県消費者団体連絡協議会会長
川俣町消費生活研究会会長
高野 イキ子 さん



食品ロス削減のためのアイデア集



05 長期愛用



古市 智己^{ともき}さん

以前は使い捨ての手帳を使っていたのですが、中の用紙だけ交換するトラベラーズノートを使い始めて約10年が経ちます。クリームを塗ってメンテナンスしたり、壊れた部品を交換したりしながら使ってきましたが、使い込むほどに変化する色合いや子どもが付けた傷跡など、全てに愛着が湧いています。また、パッケージに使われていた厚紙を再利用したクラフトファイルや博多織の帯地から作ったコインケースを挟むなど、カスタマイズも楽しんでいます。



04 着物の活用



新関 トシ^{とし}さん

着なくなった着物などを再利用してつるし雛などを作っています。これまで作ってきた作品は、全て私の家にあった着物や友人が譲ってくれた着物、フリマアプリで購入した端布を再利用して制作してきました。私と同世代の人たちが、昔着ていた着物を再利用して、つるし雛を現代に作り直すということは、つるし雛を見た人に絹で栄えたこの町の歴史を伝えることもできていると思っています。今後ともごみ減量のため、町のために制作を続けたいと思います。



03 廃材利用



藤原 栄二^{えいじ}さん・晴江^{はるえ}さん

「藤の湯」創業当時は町内の製材所から出るおがくずを燃料として使用していたのですが、製材所が減少してしまったため、現在ではパレットや住宅を解体して排出される廃材を利用してお湯を沸かしています。廃材を利用することで新しく森林を伐採する必要もなく、石油などの燃料の使用を抑えることができます。また、燃やした後は、約5キロの灰が出るのですが、その灰は畑に肥料として撒いたり、使い切れない分は欲しいという方にお譲りしています。



知っトク！な情報

01 生ごみ処理容器購入補助金

下記の補助対象容器を購入・設置した際の費用を補助しています。

- ①生ごみコンポスト化容器
- ②生ごみぼかし専用処理容器
- ③生ごみ電動分解処理機

補助金額：購入価格の2分の1以内の額
限度額：30,000円



02 資源回収報奨金制度

資源ごみの回収・リサイクルに取り組む対象団体に対し、川俣町から回収量に対して報奨金を交付しています。

対象団体：地域住民で構成する非営利の団体
(自治会、PTA、子供会その他)
報奨金額：回収量1キログラムあたり5円

